

柑芦会 本部 ニュース

第 20 号 2021. 3. 1.



wakayama
univ.

国立大学法人
和歌山大学

—そして ここから—



1. 寄稿①



ご挨拶

経済学部教授 長廣利崇

経済学部で近現代日本経済史・経営史を研究している長廣利崇（ながひろ・としか）と申します。この機会に3つの活動を紹介させていただきます。

1つ目は研究です。単著としては、『戦間期日本石炭鉱業の再編と産業組織』（日本経済評論社、2009年）と『高等商業学校の経営史：学校と企業・国家』（有斐閣・2017年）を公刊しております。両方とも産業や学校から第二次世界大戦前の日本の経済や経営を考えるものです。現在は、戦前期日本の企業家を分析対象とし、イノベーションや教育を検討しています。とくに高等教育を受けていない企業家が成功した条件を探っております。この問題は戦前期の学歴とビジネス成功との関係から重要なものになると考えております。

2つ目は、キャリア就職・支援委員長としての活動です。本学で学生の就職に5年間従事してきました。柑芦会の皆さま方には様々な点からご援助を賜り感謝申し上げます。とりわけ、2020年度は、コロナウィルス感染問題によって、採用選考のオンライン化、スケジュールの変更など、学生の就職活動は大きく影響されました。現在もなお就職活動を継続している学生もいますが、2月4日の時点では民間就職希望者の97.6%（2021年3月卒業予定の4年次生の数値）が内定を得ています。

3つ目は、経済学部教員として兼担しています紀州経済史文化史研究所の活動です。紀州経済史文化史研究所は大学図書館の3階に展示室をもつ博物館相当施設であります。歴史資料の保存や解説などにも従事しております。とりわけ、1960年代の学生運動（60年安保・70年安保）の記録を保存し後世に引き継ぐ活動もしております。運動に関係した方々のお持ちの資料に加え、「声」を保存する取り組みをしています。すでに、柑芦会の皆さま方には貴重な史料の提供とインタビューの機会を与えて頂いております。インタビューは匿名でも可能ですし、許可がない限りは公開されません。情報を提供していただける方がいらっしゃればご連絡して頂ければ幸いです。

写真左：経済学部のエントランスにある高商時代の記録



写真右：キャリア支援室



1. 寄稿一②



支部長就任雑感

柑芦会副会長・和歌山支部長

坂本 漸（大8）

新型コロナウイルス感染拡大が世界中に及び、未だ終息のめども立たない今日ですが、そんな中で令和2年柑芦会和歌山支部長を拝命いたしました。昭和31年入学、35年卒業の経済学部八期生です。当時はまだまだ和歌山高等商業学校の雰囲気も残っていて、高松校舎とか、寮生活とか高商から引き継いだ大学だった。

和高商の卒業生は皆さんプライドも高く、そんな雰囲気が濃く残ったのは高松校舎内の寮生ではなかったか。良くも悪くも和高商の雰囲気の残った昭和30年代前半だった。柑芦会も当然先輩との交流、同窓会意識の強い会で、私等は未だにそんな意識は消えません。

いま支部長をお受けし、柑芦会の副会長という立場にたち、その活動内容の様変わりに驚いています。大学の置かれている現状、特に文科省の転々とする方針、国立大学も法人化され、その方針にそった学校運営を強いられ、学校を取り巻く状況も大きく変わって来ているように思われます。学校も独自の収入額を得な

ければならなくなっているのでしょうか。

経済学部後援会が設立され、大学支援に大いに期待されているところでしょう。大学院生への奨学金制度、留学生支援、クラブ活動支援等々。大学も従来の 2 学部から観光学部、システム工学部等総合大学化し、経済学部を取り巻く環境も大いに変わって来ています。昨年来の世界的新型コロナウイルス感染症の蔓延により、密を避けることから、どの会議もオンラインとかウェブ会議だとかに変わり、一会場に集まり顔を接しての討議はなくなりました。私のようなガラ系は大あわてです。パソコンもままならずスマートフォンで窮屈ながらも何とか趣旨だけは得られたようですが、時代の大きな転換期となるのでしょうか。そんな大波の中に支部長・副会長をお引受けして、全く役にたたない自分を痛感し、恥じ入るばかりです。

和歌山大学にも社会人を受け入れる制度が出来ています。これからも社会の変化が大いに続くでしょう。そんな環境の変化に対応するには社会人入学制度を大いに活用し、学び直す事が大切になるでしょう。大学と地域社会、大学が一般社会に浸透することなど今もって気付いた次第です。後輩諸君の大いなるご活躍を期待しています。

2. 支部情報

大阪支部

第 31 回 柑芦 経済 講演会

オンライン開催さる！

2 月 27 日 (土)

伊東学長講演



第 31 回 柑芦 経済 講演会がオンライン(ズーム)で、盛況裡に開催されました。

1988 年に第 1 回の開催以来 31 回を数える歴史ある「柑芦経済講演会」は、令和 3 年 2 月 27 日(土)に、オンライン(ズーム)により、北は、東北支部から、南は、九州支部までの柑芦会員 85 名の参加をいただき、盛況裡に開催されました。

本来ならば、昨年に第 31 回を迎えるはずでしたが、コロナ禍により中止せざるを得なくなり、今年もコロナの感染状況は予断を許さない状況でしたが、2 年連続の中止は何としても避けたいとの会員の強い思いからオンライン(ズーム)での開催にこぎつけることができました。その結果、大阪支部主催で、柑芦会本部が後援という形での開催となりました。

講師には昨年もお願いしておりました和歌山大学の伊東学長に再びお願いしましたところ、公務ご多忙に

もかかわらずご快諾をいただきました。

テーマは、我々OB、OG が今一番聞きたいであろうと思われる「和歌山大学の「いま」と「これから」」について、様々な統計資料や説明資料を使って、1. 和歌山大学の現状、2. 国立大学を取り巻く環境、3. 将来へのビジョンと取り組み に分けて、1時間10分たっぷりと熱のこもった講演をしていただきました。

出席した会員からは、和歌山大学の将来ビジョンと取り組みの中で、紀伊半島価値共創基幹：Kii-Plus(キイ・プラス)についての質問や大学同窓会組織のあり方、松下会館の活用策など多岐にわたる質問がありましたが、伊東学長は熱心に、真摯にお答えになっておられました。

今日の学長のお話を伺って、たぶん多くのOB・OGは大変満足されたと共に、母校愛が大きく膨らんだのではないのでしょうか。

今回の経済講演会の成功は、伊東学長をはじめとして、この間にいただいた会員の皆様のご協力や、北村会長をはじめとする役員の皆様、実行委員会の皆様、各支部のボランティアの皆様、事務局の皆様のご尽力によるもので、心から感謝し、お礼申し上げます。

これからの経済講演会にもご期待ください。ありがとうございました。

(大阪支部幹事長 大23期 西本)

3. 本部情報

◆マグレビ学部長の「任期終了記念講演会」を開催しますので奮ってご参加ください。

マグレビ学部長「任期終了記念講演会」ご案内状

柑芦会会長 北村修一

日ごろは柑芦会の諸活動に対してご理解とご協力いただき、ありがとうございます。

さて和歌山大学経済学部では、この2年間学部長の大任を担ってこられたマグレビ・ナビル学部長が3月末をもって任期満了でご退任されます。

任期中はコロナ禍によって各支部の総会が軒並み中止となり学部長として皆さまとお話いただく機会が激減しましたので、今般少しでもそれを補っていただくための講演会を企画いたしました。

つきましては、下記要領により参加者を募集いたしますので、奮ってご参加ください。

記

1. 日 時 : 3月27日(土) 13:00~14:30 (質疑応答を含む)

2. 講 師 : マグレビ・ナビル教授・経済学部長

3. 演 題 : 「和歌山大学経済学部の現状と発展」

(ご自身の研究成果の一部である「感染症拡大の経済学」の講義を含む)

4. 方 法 : オンライン方式(ZOOMを使用)

5. 定 員 : 30名(先着順)

6. 受講料 : 無料

7. 接続テスト: 受講者のうち「希望者」には「接続テスト」を下記のとおり2回開催します。

(1)3月17日(水) 15:00~16:00

(2)3月20日(土) 14:00~15:00

8. 申込み先 : 柑芦会 本部事務局 宛 TEL : 06-6941-4986

宛先アドレス : kourokaihonbu1@gmail.com

記載事項 (必須) :

①氏名

②卒業期

③Zoom接続テスト「参加する」、「参加しない」の区分

参加する場合・・・上記(1)(2)のどちらか希望の日時を記入

9. 締め切り : 3月12日(金) 17:00(厳守)

10. 運営体制 : 主催=柑芦会本部、共催=大阪支部

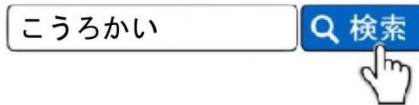
協力=副会長支部(東京、東海、和歌山、神戸支部)

和歌山大学経済学部同窓会 柑芦会 本部 事務局

〒540-0012 大阪市中央区谷町 4-4-17 ロイヤルタワー大阪谷町 207 号

Tel:06-6941-4986 Fax:06-6947-7925

E-Mail: honbu@kourokai.com URL : <http://www.kourokai.com/honbu/>



フェイスブック

ホームページ「柑芦会」

「柑芦会オフィシャルグループ」
